



応用行動分析学から見る行動のメカニズム

行動障害の基本的な理解



はじめに





強度行動障害とは



強度行動障害とは・・・

精神科的な診断として定義される群とは異なり、直接的他害(噛みつき、頭突き等)や、間接的他害(睡眠の乱れ、同一性の保持等)、自傷行為等が通常は考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では著しく処遇の困難なものであり、行動的に定義される群。家庭にあって通常の育て方をし、かなりの養育努力があっても著しい処遇困難が持続している状態。

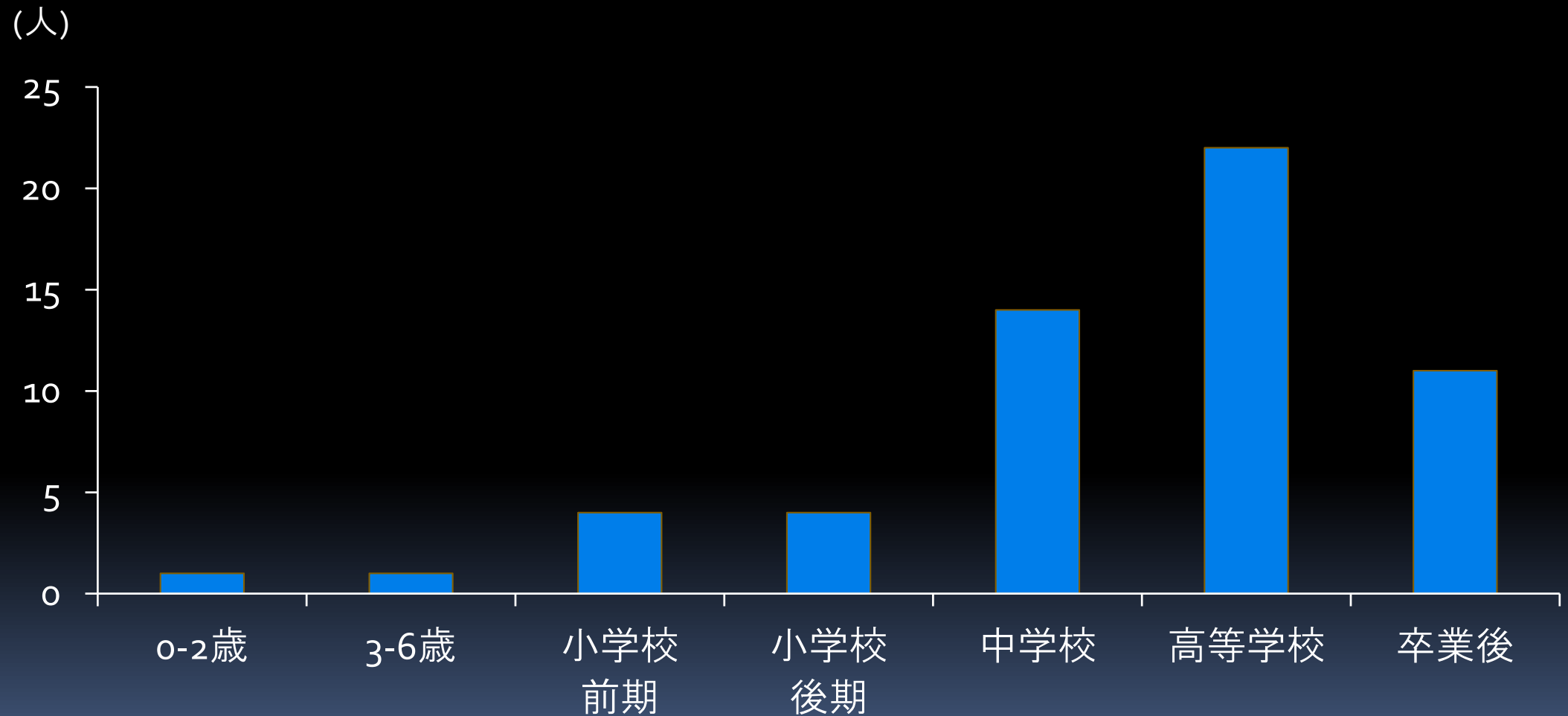
行動障害児（者）研究会（1989）：強度行動障害児（者）の行動改善および処遇のあり方に関する研究。財団法人キリン記念財団助成研究報告書より

二次的、三次的な障害であるところ・・・つまり？

行動障害の内容（「強度行動障害判定基準(1993~2004)」より）

- ひどく自分の身体を叩いたり傷つけたりする等の行為
- ひどく叩いたり蹴ったりする等の行為
- 激しいこだわり
- 激しい器物破損
- 睡眠障害
- 食べられないものを口に入れたり、過食、反すう等の食事に関する行動
- 排泄に関する強度の障害
- 著しい多動
- 通常と違う声を上げたり、大声を出す等の行動
- パニックへの対応が困難
- 他人に恐怖感を与える程度の粗暴な行為があり、対応が困難

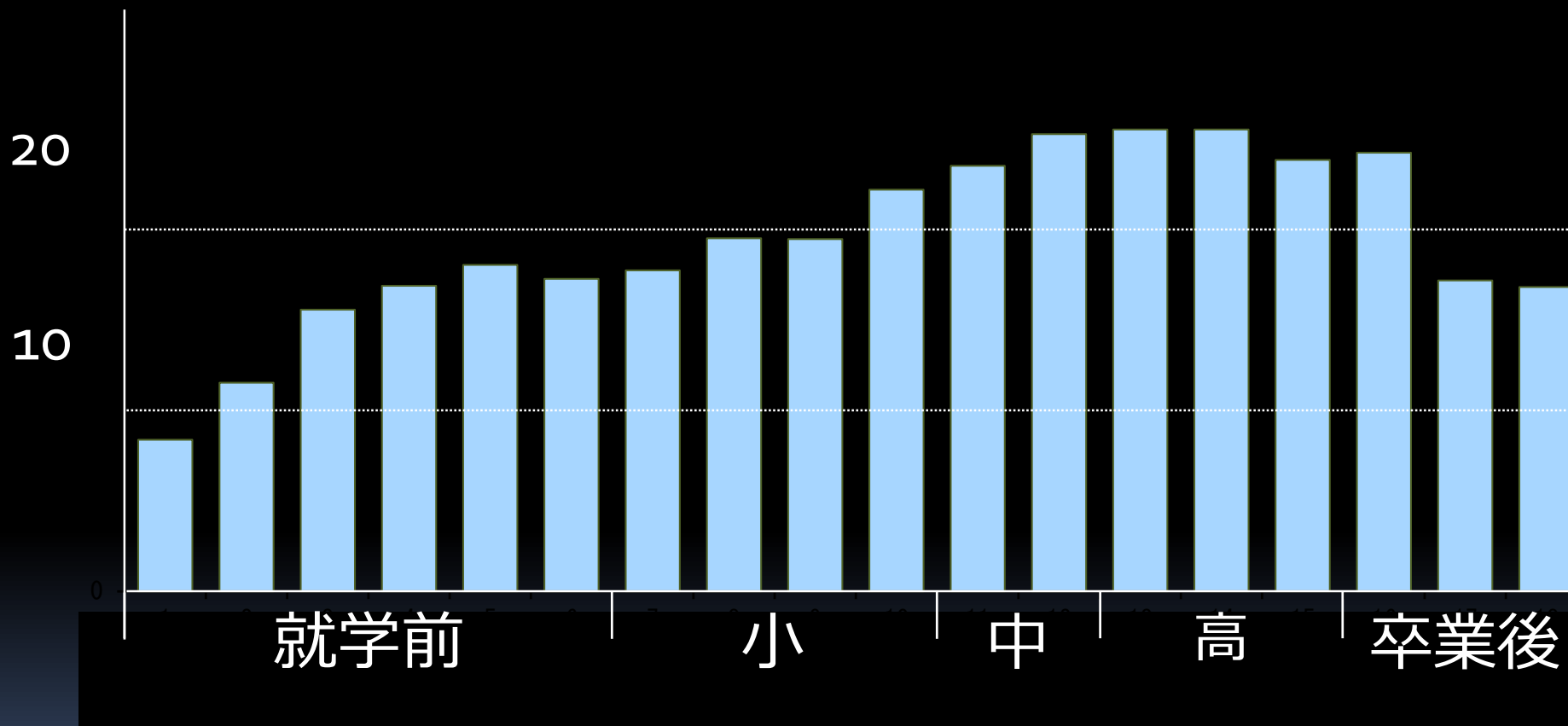
行動障害が最も大変だったと思う時期



全日本手をつなぐ育成会（2012）「強度行動障害の評価基準等に関する調査について報告書」

強度行動障害得点の時期別の平均

強度行動障害判定基準の全体得点平均



全日本手をつなぐ育成会（2012）「強度行動障害の評価基準等に関する調査について報告書」

TEACCH (Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children)



Eric Schopler
(1927 – 2006)

- 1960年代後半からノースカロライナ大学で行われた自閉症研究をもとに構成された包括的プログラム。
- PEP(現在PEP-3; Psychoeducational Profile-3rd edition)、AAPEP(現在TTAP ;TEACCH Transition Assessment Profile)により、子どもの実態を個別に評価。
- 「自閉症診断」には CARS(The Childhood Autism Rating Scale)を使用する。
- 認知障害を前提とした、構造化(物理的構造化、スケジュール、ワークシステム、視覚的構造化)。

「絵カード交換式コミュニケーション・システム(The Picture Exchange Communication System)」

PECSでは、整理された環境の中で、絵カードをコミュニケーションツールとして、段階的にトレーニングをしていきます。

- 1)例えば、大好きな食べ物があります。その食べ物をとても手に入れたいけれど、直接手にすることができません。
- 2)そこで、その食べ物の絵カードをとって、大人に手渡します。
- 3)すると、その食べ物を手に入れることが出来る。これを段階的に拡充していきます。

etc

「ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社」のホームページ(pecs-japan.com)で、このトレーニングについて紹介されていますし、マニュアルの販売も行っています。

応用行動分析学とは

- 米国の心理学者Skinnerによって創始された「行動分析学」を複雑な人間行動に広く適用し、理論化された1学問体系である。
- Applied Behavior Analysisの頭文字をとって通称“ABA”とも言うが、これを指導プログラムと誤解されていることが多い。注意が必要。

なので、決して唯一無二の治療法を意味するものではなく、あくまで人の行動の原理について説明したもの。分析が正しければそれに基づく介入は効果をあげるが、分析を誤れば事態は変わらない。

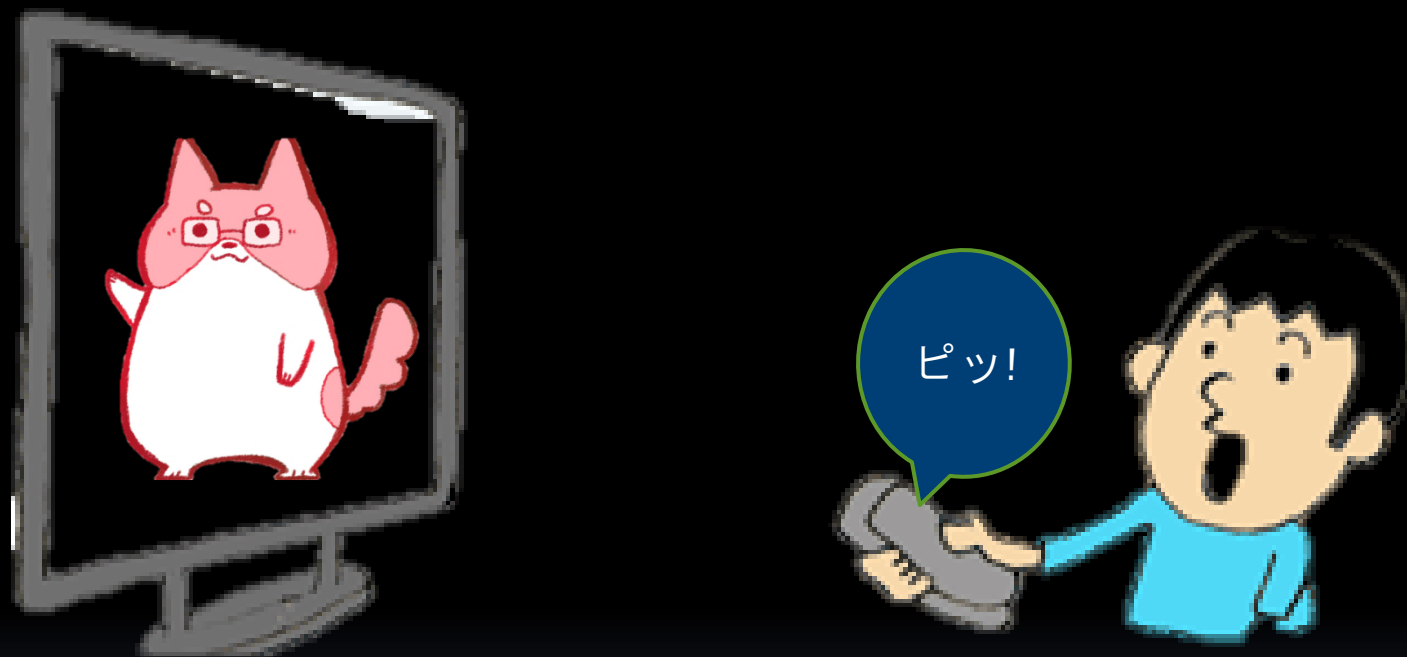


行動のメカニズムを知る

行動が増加するのには理由があります

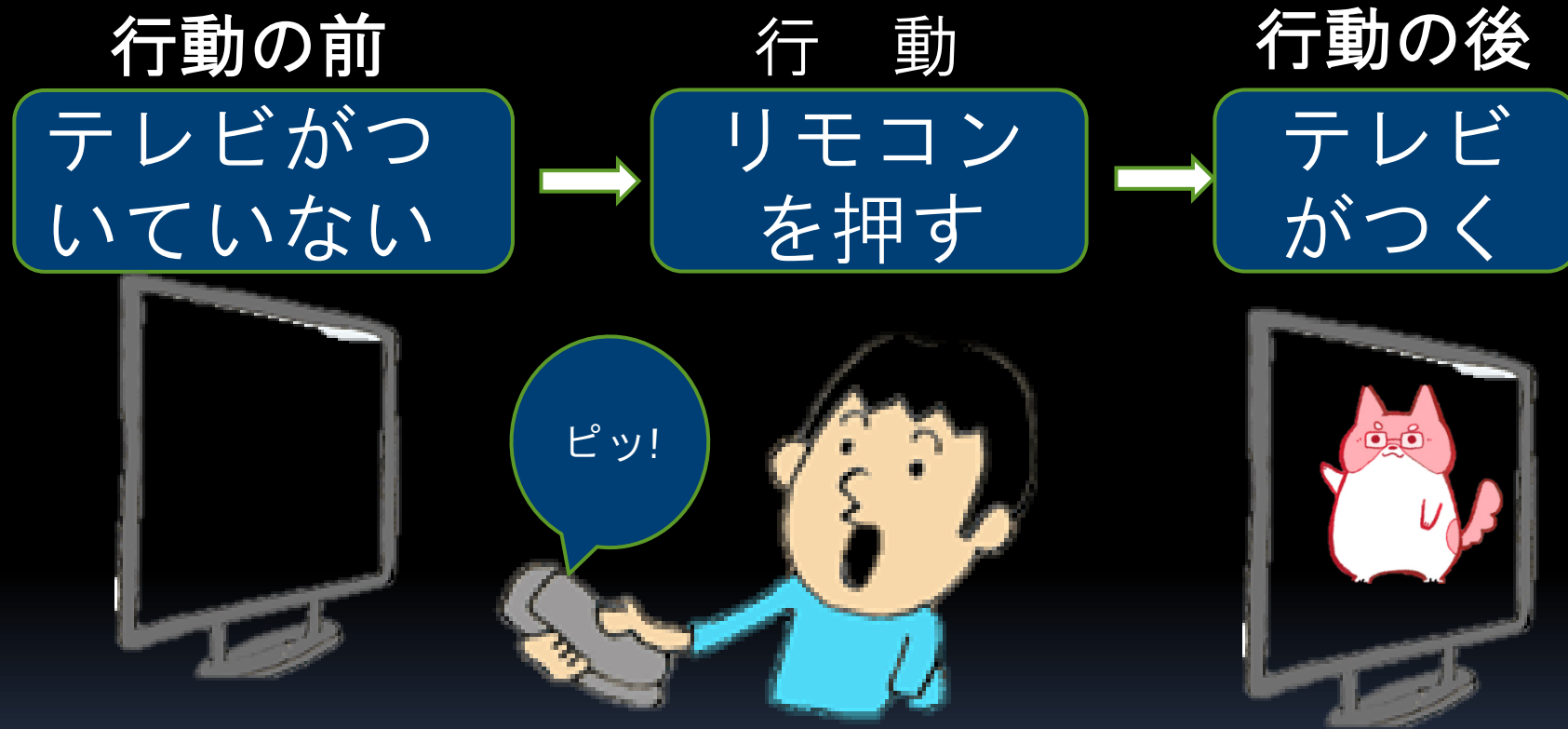


なぜ、テレビのリモコンを押すのですか？



「あなたの気持ちのこもった支援」と「私に必要な支援」は、同じとは限りません・・・。

行動の説明として・・・



人の行動は、『行動を起点に、前後の3つの関係で説明する』。これを三項随伴性と言います。

行動分析の基本的考え方 1



「強化」
と名づけます

行動の分析の基本的考え方 2

「強化」には、
ファーストネームがある・・・

正負の計算って、覚えていますか？
「正」は足し算、「負」は引き算。

- 行動の後の事象が、行動の主体に「足されていた」ら、それは「正の強化」。
- 行動の後の事象が、行動の主体から「引かれていた」ら、それは「負の強化」。

人の「行動の原理」その 3

- 「行動」が増加、維持していた場合、その行動の直後の事象は、「強化」といいます。正・負の強化には、それぞれ以下の機能があります。

【足し算】 = 【正の強化】 = 【要求行動】

1)モノや活動が得られる、2)好ましい感覚が得られる、3)人の関わりが得られる

【引き算】 = 【負の強化】 = 【逃避・回避行動】

4)嫌なモノや活動、5)嫌な感覚、6)人が、自分から遠ざけられる

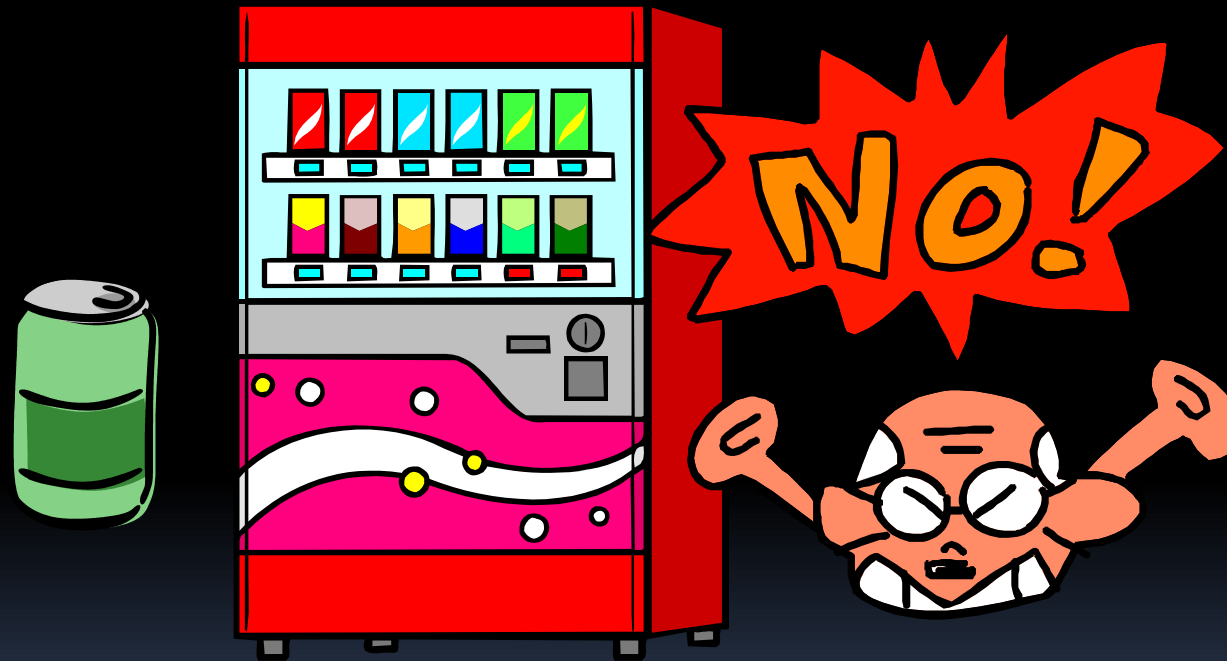
の6つのいずれかであることがわかっています。

もし「強化事象」がなくなると・・・

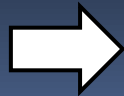
- 行動は、“いずれ”減少していきます。
- この様な手続きを「**消去手続き**」と呼びます。

ただし、「消去手続き」には注意が必要です・・・なぜなら

ボタンを押したのに、自動販売機からジュースが出てこなかったら・・・ボタンを押す行動は？



直前
ジュースが出て
こない



行動
自動販売機を強
く叩く



直後
ジュースが出て
くる

消去手続き(extinction) のリスク

- 消去抵抗
- 消去バースト・攻撃性の生起
- 自発的回復
- 限定的な効果
- 模倣の出現

こうした行動が生起している時に、本人にとって好ましい事象を提示すると・・・

人の「行動の原理」 その2

- 生起している行動は、その前の事象により「誘発」され、そしてその後の事象により「強化」されています。
- 対応のツボは、行動に対して「やめなさい」と言い聞かせるのではなく、行動の「前・後の事象を変更する」ところにあります。前・後の事象が変わると、行動は自ずと変化します。
- ただし、前後の事象に対して戦略的に変更を加えないと、悪く変化します。

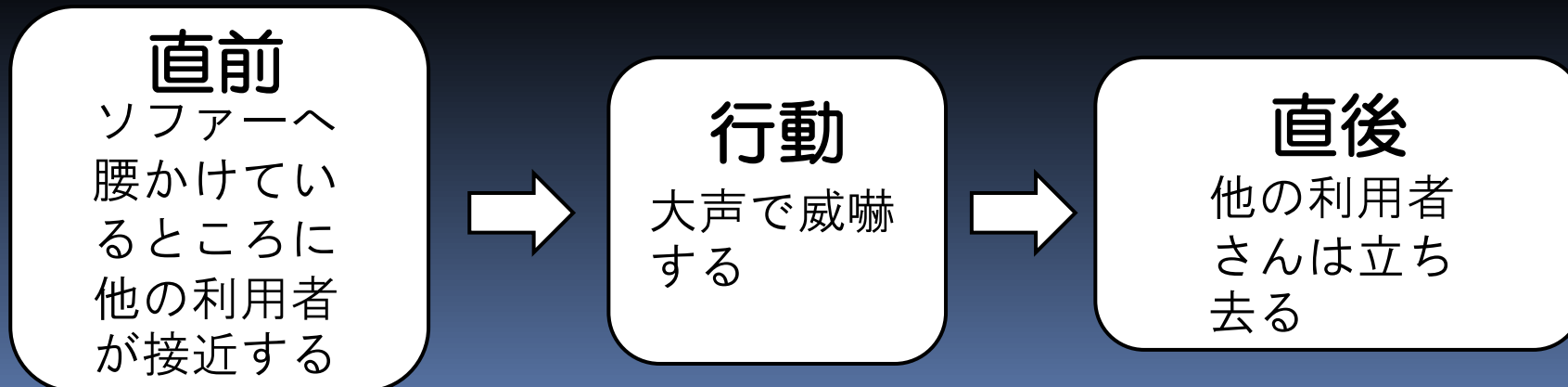
練習（内容は一部変更していますが、実際の事例です）

- お気に入りの三人掛け用ソファーに腰を掛けている、Aさん。他の利用者さんが、そのソファーへ腰かけようと接近します。
- すると、Aさんは、その利用者さんを大声で威嚇します。
- 他の利用者さんは、諦めて立ち去って行きます。

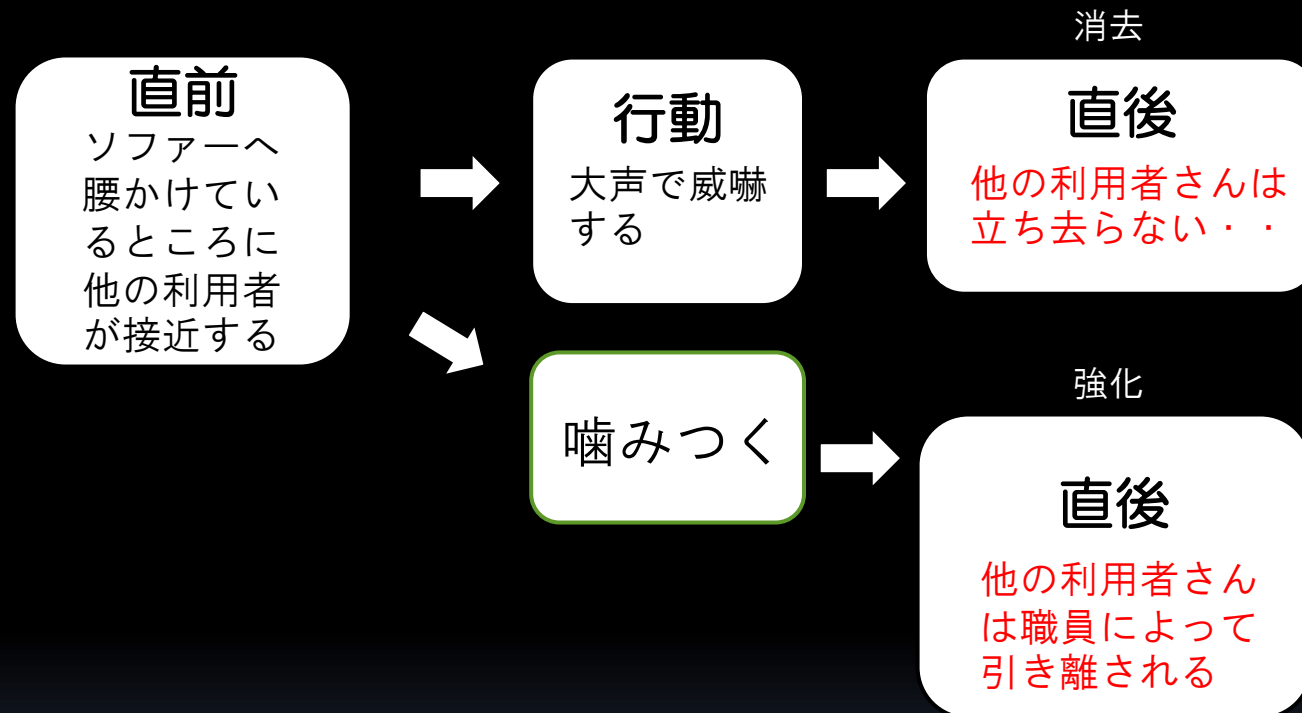


練習（内容は一部変更していますが、実際の事例です）

- お気に入りの三人掛け用ソファーに腰を掛けている、Aさん。他の利用者さんが、そのソファーへ腰かけようと接近します。
- すると、Aさんは、その利用者さんを大声で威嚇します。
- 他の利用者さんは、諦めて立ち去って行きます。

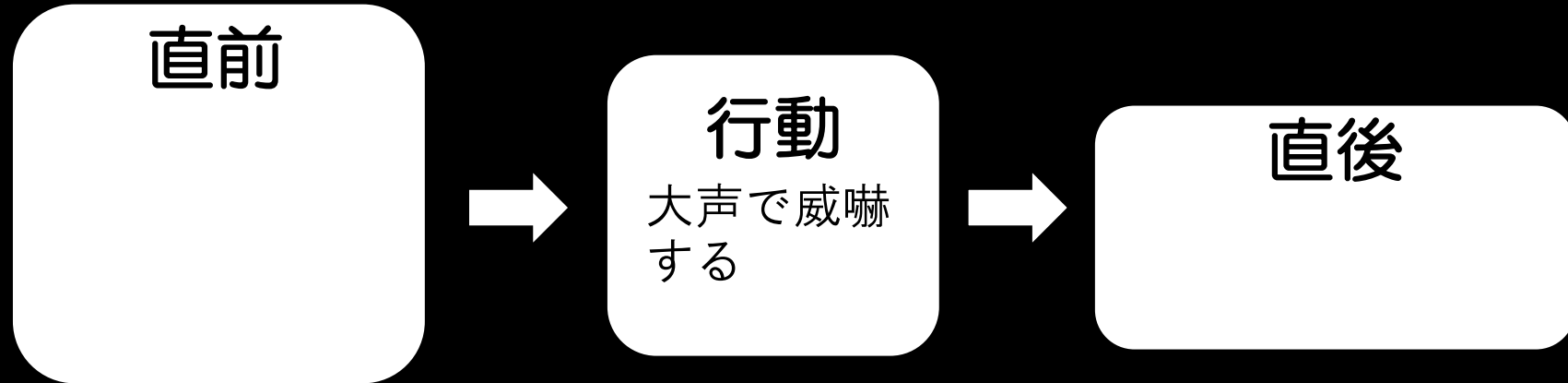


先ほどの事例（内容は一部変更していますが、実際の事例です）



どうやら、あまり有効な手段ではなさそうです・・・ではどうしますか？
戦略をたててください

さきほどの「事例」ですが



- さて、皆さんなら、これをどのように解決しますか?
- ポイントは「見て、すぐわかる」
- ちなみに、これは実際にあった事例です。しかも、見事にこの行動を減少させることに成功しました。



おわりに



有川研究室

E-Mail : arikawa@ed.niigata-u.ac.jp

Twitter: <https://twitter.com/aripiyon>

Facebook : <https://www.facebook.com/arikawa.hiroyuki>

HPありちゃんねる : <http://arichannel.jp/>

本日使用したパウポのPDFを、1週間
だけホームページの「研修資料」
[http://arichannel.jp/research-
program/lecture-meeting/](http://arichannel.jp/research-program/lecture-meeting/)
にアップしておきます。ダウン
ロードは自由です。



研究室公認ゆるキャラ
「あり犬」